

事業名 : ～納涼～魚釣り・魚つかみ大会

団体名 : 椿色区

1 事業内容

日時 令和5年8月14日(月)

場所 椿色公会堂周辺

内容 魚のつかみ取りと魚釣り

【事業経過】

月 日	実施内容	場 所	参加人数
7月15日	検討	椿色区公会堂	15人
7月26日	あいなりの里・六甲山見学	神戸市	2人
8月11日	事前準備	椿色区公会堂	11人
8月13日	前日準備	椿色区公会堂	20人
8月14日	魚つかみと魚釣り	椿色区公会堂周辺	100人
8月26日	反省	椿色区公会堂	15人

2 事業の効果

(1) 団体（組織）内の効果

事前に地区内に広報等で知らせていたので、普段はお盆でも帰省しない都市部に住んでいる家族や遠方に住んでいる親戚も家族全員がそろって帰省してきた。また、この事業を実施するにあたり、地区の役員だけでなく、20代、30代、40代、50代など多くの世代の協力者が集まった。

以前この地区での「魚釣り大会」を実施していた80代の長老も色々アドバイスをしてくれた。まさに地区住民総出で、企画・運営・実施ができた。特に小さな子どもたちが、プールの中に放された「ヤマメ」を歓声を上げながら追いかける姿を見ている大人たちはとても幸せそうな笑顔で見守っていた。

(2) 地域への波及

中山間地のこぢんまりとした地域で、普段は交流の少ない「若者」と「中堅」と「長老」が、一つの目的に向かって協力できたことで、新たなつながりが生まれた。特に夜勤の若者もいたりして、日中殆ど会話する場面がない若人とも、この事業を通じて距離感が短くなった。「あの人はどこに務めているんだ？」という一言から会社名や勤務先など色々な会話が弾んだ。

3 協働の相手方

- ・小佐自治協議会で協働：小佐地区の発展のために、環境学習を進める。

小佐自治協議会の各区長に、今、椿色区がやろうとしている内容について広く知ってもらう機会を作る。一応、林さんからは、今までつながりのある小佐地区数名の方には、手紙を書いたりやりとりが続いているので、まずその方々と協働の取組を進める。次に、各地区へと拡大する。

- ・環境プランナーの林 徹氏と協働：今回の台風7号の被害状況も伝えているので、まず小佐川全域に「ヤナギ護岸」を育成する。コンクリート護岸をのぞき、石積みの護岸にヤナギの苗を植えていく。まず、各区の区長に呼びかけ賛同を得られた区から取り組んでいく。

次に小佐川全域を「ホタルの里」にする取組として、各農業水路に「疎水」を作り、ホタルの幼虫を育てるための巻き貝(サンナイ)を育てる。そして、ホタルの卵を購入して孵化場を作り、1年

1年と徐々に増やしていく計画を立てる。特に今回のような、土砂災害でもヤナギ護岸や疎水の整備ができれば、幼虫や卵や水性小動物が流されずに住み続ける事ができ、増加していく。

4 今後の課題等

(1) 団体（組織）活動を継続するための工夫等

椿色区の閉塞感を打破するためには、しっかりとした地区のビジョンを確立し、それを共有しないといけない。3年後の計画、5年後の計画、10年後の計画の三段階で今は考えている。

3年後：現在の33戸の戸数が30戸に減少・その穴埋めとして地域興し協力隊の移住を進める。

5年後：更に5戸の減少が考えられる・住居と農地と山林をセットにした田舎暮らし移住を促進する。

10年後：戸数減少と人口減少に歯止めをかけるために、地域の魅力をアピールするための事業を興す。

事業例→ヤギ牧場、田舎カフェ店、田舎食堂、ヤマメの養殖場、山菜の育成、妙見米のオーナー制度など中長期的な取組として、「妙見杉」を秋田杉と同様の「赤み材」の多い品種として成長させる。小佐谷の地区に「地域やまもり隊」を組織し、若者が定住できる環境を作っていく。

(2) 地域活動を拡大していくための工夫等

環境プランナーの林氏の紹介で、神戸市の「あいなりの里公園」の見学に行った。多額の国費が投入されての開発であるが理想の里山が誕生している。小佐地区全体であいなりの里公園のような地域空間を作っていくことは可能だと思う。総面積23haに様々な施設が整備されている。その一つずつでも整備できれば、人が集まる仕掛けができる。小佐には9つの地区がある。1地区で一つ魅力ある施設が整備できれば9つできる。その「点」をつなぎ「線」として、更に「面」となるような取組が必要。

都市部からの「田舎体験プラン」を楽しむための仕掛けができれば、SDGs「持続可能な開発目標」に添った、小佐地区で実践できる内容を精査、工夫し取組を進める。



5年8月14日 環境学習



5年8月14日 魚つかみと釣り堀の準備



5年8月14日 ヤマメ釣り



5年8月14日 ヤマメつかみ取り